



くに譲り

天照大御神は、御子に「豊葦原水穂国を治めなさい」と命じられたが、地上の葦原中津国はひどく騒がしい状態でした。

そのため、天つ神を派遣して鎮めようとしたが、最初の神は、出雲の大国主神に媚びへつらい三年経っても報告しません。つぎの神も大国主神の娘と結婚し、その国を手に入れようとして八年経っても報告しません。

そこで最後に遣わされた建御雷神は、出雲の海岸に降り立つと、長い剣を波頭に逆さに立て、剣の切っ先にあぐらをかき、大国主神に「天照大御神は、御子にこの国を治めよと命じられたが、どう思うか」と問い質しました。大国主神が「吾が子がお答えいたします」というので、事代主神を探してお尋ねになると、「かしこまつて国をたてまつります」と答え、海の中へ身を隠してしまいました。もう一柱、千人力の建御名方神は「力くらべて決めよう」と、大きな石を引っさげて現れました。ところが、その手を建御雷神に握られると、葦の若芽がつかみ取られたように投げ出され、信濃国の諏訪湖のほとりまで逃げて行きました。そして、「ここから外に行かず、父や兄の命に従って、国をたてまつります」と申しました。これを知り、大国主神が「出雲に立派な宮殿を建てて住めるなら、国を譲ります」と申されたので、建御雷神は高天原に帰り、天照大御神にご報告申し上げました。